

市長のあまねくつぶやき

「総合戦略書について」

今月は「5つの重点プロジェクト」の5つ目、「情報発信日本一プロジェクト」です。

昨年、ブランド総合研究所が47都道府県と千市区町村を対象にした「地域ブランド調査2016」の結果を発表しました。この調査は、各地域に対して認知度や魅力度、イメージなど全77項目の設問を設け、全国の消費者約3万人から回答を得て、地域のブランド力を「魅力」として数値化したものです。茨城県においては、4年連続47位となりました。本市も全く上位には入らず、下位をキープしています。しかし、このままこの位置にずっといるわけにはいきません。

では、どのように魅力度を上げていけばよいのでしょうか。本市の魅力とは何なのでしょう。行政がメディアに働きかけ、たくさん露出するだけで良いのでしょうか。

まず、自らの地域を知ることが重要ではないかと思えます。地域の素晴らしさを知らなければ、来訪者に対して案内も伝えることもできないと思います。また、普段見慣れている景色や食べ物、歴史、行事、習慣など、市民は気がついていないかも知れませんが、来訪者にとってとても珍しい事や感動することがたくさんあると言われています。2つの湖

に囲まれた豊かな環境を全市民が自慢に思い、まちの魅力を効果的に発信できれば、魅力度は上位になっていくと確信しています。

本市では全国自治体3番目となるエリア放送を整備し、防災情報を含むさまざまな情報を発信するまちづくりを目指しています。その手段として、情報通信の学科を有している専修大学や全国に「お笑い」を発信しているよしもとクリエイティブエージェンシーとの連携、地元のラジオである茨城放送やFMかしまとの災害協定を中心に、情報伝達を重視した事業を展開しています。これらは、事業をお願いするだけでなく、市民も深く関わってもらい地域の魅力を発信できるようにさまざまな育成事業も同時に行っています。

情報は必ず人が発信します。市民に情報の発信力が付けば、全国に行方市の魅力をアピールすることが可能ではないかと思っています。

行方市長 鈴木周也



市長へのEメール
投稿用2次元コード



市政に対する意見や
提案をメールでお寄せください。

はい、こちら行方市消費生活センター！

警察官や銀行員をかたった詐欺にご注意!!

【事例】

「あなたの銀行口座が犯罪に利用されている。口座情報が漏れているかもしれない。このあと、銀行員から連絡がある」と警察官から自宅に電話があった。数分後、別の男から電話があり、「警察から連絡を受けている。銀行窓口が閉まっている時間帯なので、直接銀行協会の職員を向かわせる」と言われた。その後、自宅に来た職員に、新しい口座を作るために、今の暗証番号を確認したいと言われたので伝え、使用できなくなると言われたので、キャッシュカードも渡してしまった。後日、新しいカードが自宅に届くとのことだった。その夜、今日のことを家族に話すと、詐欺ではないかと言われた。だまされたのだろうか。

【解説】

警察官や金融機関の職員が電話や訪問により、キャッシュカードを預かり、口座番号や暗証番号を聞くことはありません。また、口座の有無、口座残高を聞いたり、預金の引き出しや通帳・キャッシュカードの返還を頼んだりすることはありません。銀行に確認できないように、窓口が閉まっている時間帯に電話をかけてくるケースもあります。

不審な電話があった際は、応じたりせず、すぐに警察や銀行に連絡するか、行方市消費生活センターにご相談ください。

— まずはお電話を! —

【問い合わせ】行方市消費生活センター ☎0291-34-6446

